

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700436		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(笹生) ユニット:笹棟		
所在地	宮城県名取市愛島笠島字東南沢74-1		
自己評価作成日	令和2年4月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

竹林に囲まれた自然豊かな環境の中で季節感を感じていただきながら、心穏やかに生活を営むことができます。入居者様一人ひとりの思いを大切にしながらここに合わせた支援を心がけております。ご家族様や地域住民の方々との関係を大切にし、行事に参加して頂いて、信頼関係を深めています。隔月の運営推進会議ではご家族、町内会、行政、包括センター、民生委員に参加していただき、意見交換を行い透明性のある施設運営を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笹竹に囲まれた自然豊かな環境にあり、ウッドデッキが付いた平屋造りの事業所である。敷地内には自動販売機も設置され寛げるようベンチもある。リビングは広く明るく、日々の生活の中で季節が感じられるよう工夫し取り組んでいる。法人理念「自由に生きる」「家族の絆を大切にする」を念頭に、事業所理念「地域に密着した心地よい空間で過ごせるよう支援する」を目指し、利用者の習慣やこれまでの生活歴を大切にされた支援に努めている。家族部屋があり、家族と一緒に過ごすことも可能である。家族には、毎月個別に職員が手書した便りを送付している。町内会と連携が取れており、非常災害時の協力体制もある。例年、敬老会等の行事には、家族や地域の人が多く集まり、交流を深める機会になっていた。コロナ禍により自由な外出を自粛しているが、近隣神社に散歩に行ったり、車椅子でも外に出て外気浴を行い気分転換を図るなど、日々、五感で四季を楽しむことができるよう工夫し支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん(笹生)）「ユニット名 笹棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「自由に生きる」と「家族の絆を大切にする」の他に事業所として地域密着型サービスの意義を踏まえ「地域との絆」を大切にするという理念を作り実践している。	法人理念を念頭にホーム理念をつくり、利用者の生活習慣の継続とホームが心地良い空間になるように支援している。入職者へは、オリエンテーション時に理念や利用者本位と地域との絆について研修している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域クリーン活動、芋煮会等の行事に参加したり、避難訓練、夏祭り、新年餅つき大会などの行事に参加していた。	町内会へ加入し、コロナ禍でも町内会長との連絡を図りながら意見や助言を得て、関係継続に努めている。町内会の行事が中止になっているが、現在も職員は町内の清掃活動に参加し、隣接する笹竹の伐採などについて連絡相談をしながら周辺環境整備にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練事業所の行事に参加していただく、地域の行事に参加することで、利用者様の触れ合う機会も多く、声掛けを頂くなどの理解や支援を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回開催し、町内会、行政、民生委員、ご家族に参加していただき活動状況の報告や意見交換を行ったり、行政や包括センターからは情報提供やアドバイスを頂き日々のサービスに活かしている。	2ヶ月毎に家族や町内会長、地域包括職員、市職員、民生委員が参加し開催していた。メンバーから積極的な意見や提案があり検討し運営改善に繋げていた。現在は、コロナ禍の影響でホームに集まっての開催はできないが、メンバーへ連絡し、相談したり意見や助言を得て運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の参加を依頼し、ほぼ毎回参加していただいている。運営報告すると同時に問題点など相談しアドバイスをいただいている。	利用者の状況やトラブル、事故報告等を随時行っている。生活保護の利用者状況について、市職員と連絡を取り合いながら連携し支援している。書類の提出等についても相談しており、実施指導の際には助言を得て運営改善を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育委員会が中心となり外部研修を受けその内容は全員に復命されている。年4回の内部研修を行い、事業所において自由な行動を制限しないケアに取り組んでいる。ただし、夜間19:00以降は施錠している。	教育委員会の担当職員と管理者で、身体拘束排除に関する研修を計画し、3ヶ月毎に開催している。また、利用者一人ひとりの状況を確認し、スピーチロックに繋がる事例を上げ、課題・留意点を洗い出し検討している。帰宅願望が強い利用者には、寄り添いながら声掛けすることを意識し、職員間で情報共有して対応している。警察との連携体制もある。危険防止のためセンサーを使用したり、防犯上夜間は玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員を中心に高齢者虐待防止について、外部研修に参加し、内部研修や職員会議で報告を行うことで意識付けをし虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてはほとんどの職員が理解していない。過去にも現在も当制度を使用した方が居なかったこともあるが、今後外部研修など学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み・契約時に解かりやすい言葉で説明を行い、理解、納得を得られるように努めている。その都度質問や疑問点を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会に参加していただき意見交換を行っている。ご家族の面会時や介護計画書の説明時にはご家族様と細やかに話し合い意見や要望が言いやすい環境作り心がけている。	例年は年1回、ホーム行事と合同で家族会を開催していた。地域住民と交流を深める場を設けたり、家族や親戚の参加が多く家族同士の交流の機会となっていた。コロナ禍で中止となっているが、電話連絡等で意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、管理者を中心に運営に関わる意見や提案を設けながら反映している。	年1回、管理者は職員と面談を行い、意見・要望を聞き、前向きで積極的な意見が出るようにコミュニケーションを図っている。日常的には、主任に相談し連携を図っている。勤務シフトについて出された意見や提案を検討し、朝の時間帯の職員配置を手厚くする等、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員は常に向上心を持ちながら、勤務し、職場環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に内外の研修の機会を設けながら勤務している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内会の避難訓練、防災についての研修に参加し、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が不安なことや要望などが聞かれた際、耳を傾けながら安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることが聞かれた際、耳を傾けながら対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族が必要としている支援を食委員が見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が介護される一方の立場に置かず職員は、一緒に暮らしている関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との絆と笑顔を大切にしながら支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人等が面会に来られた際、会話や談笑が出来る環境を整え、支援に努めている。又馴染みのある写真など設置して居室環境に努めている。	利用者の状態などを担当職員が手書きの便りを作成し、家族へ渡している。家族から利用者に差し入れがあったり、親族との電話連絡できるよう努め関係が途切れないよう支援している。馴染みの場所にドライブに出掛けたり、今までの習慣が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が毎日笑顔で楽しく孤立しないように職員が中に入り支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの入居者様やご家族様と築き上げてきたことを大切に、必要に応じていつでも支援できるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望、意向、生活の様子を基に、現状を把握し、ご本人の能力を活かしながら、やれることを出来るように支援している。	入居時に利用者の生活歴や趣味を確認している。日常的には担当職員が中心に、利用者の表情や食事の様子の変化、身体面で変化したことについて等、気づきを毎月ミーティングで情報共有し支援に繋げている。	状況をみながら「利用者の生活がこれまでのように継続できる」ための取り組みについて、更に検討することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より、以前の様子や今の様子について感じていることを聞き、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を職員全員が記録に書き留め、会議や申し送り、生活の向上に向けて話し合いができるように環境を整えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、職員会議でカンファレンスを行い、ケアプランの見直しを実施している。又日々の変化していく入居者様が安心して生活が送れるよう、支援する。家族様には面会時に意見や感じていることを聞き、確認し、同意を得ている。	利用者・家族の意向の他、医師から助言を得ている。毎月の職員会議で、職員から意見を聞き、課題等を検討して介護計画に反映させている。利用者の楽しみや習慣なども取り入れ立案し、家族に郵送し確認・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケアプランに沿って支援し、記録している。日々変化する入居者様の気づいたことを等など細かく記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やご家族様の意向に沿えるように様々な提案をし、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様一人ひとりの能力を把握し、無理のないようにお散歩、ドライブ、近所のお祭りに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を基本とし、定期往診、医療機関を必要に応じ利用している。医療機関関係の連絡は「医療ノート」に必ず記入し、情報を共有している。	ほとんどの利用者が往診医をかかりつけ医としている。職員は往診医が記録した「定期往診チェック表」や「医療ノート」に記録された情報を共有し、医療連携体制を整えている。他科受診時に職員が同行した場合には、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に入居者様の健康状態を把握し緊急時には迅速に対応できるようご家族、訪問看護、職員間で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に看護師や相談員と連絡を取り、健康状態、情報の交換相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族、主治医、施設サイドで話し合い、対応について検討している。	利用者の状態が重度化し、医師が終末期と判断した際には家族に説明し、意向の確認や話し合う機会を設けている。夜間でも医師と連絡を取り合うことができ、看取り経験がある職員も多く、医療とホーム職員との連携体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基礎的な応急手当や初期対応の訓練は定期的に行う(マニュアル確認、講習会に参加)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを元に地域住民にも協力を要請し避難誘導や避難場所の確保等の協力体制はできている。	例年は年2回、避難訓練を実施しているが、今年度は実施できなかった。災害時には町内会との協力体制ができており、建物の外へ避難後には利用者を誘導してもらうなど連携を図っている。感染症対策や定期的な設備・備蓄品の点検も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、生活歴、個人を尊重し、一人ひとりに合った話し方、声の高さ、接し方に配慮した対応を心がけている。	利用者に合わせた呼び名で声掛けし、一人ひとりの人格を尊重しながら支援に努めている。言葉掛けや支援時に意識するよう取り組み、申し送り時はイニシャルで行うなど配慮して取り組んでいる。居室への入室時は必ずノックし確認を取り、排泄や着脱介助時には、ドアやカーテンを閉める等羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常日頃から入居者の自訴に耳を傾け話し方、希望等に注意を払い自己決定ができる対応を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の尊厳を尊重し、ご本人が望む暮らしを大切にしながら、日々生活が満足できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自分で衣類を決めて着用して頂いている。選択することが困難な場合は数種類見て選んでいただけるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの出来る範囲を把握し、手伝って頂いたり、職員と同じテーブルにて同じ物を食し見守りながら楽しく一緒に食事や片付けをしている。	食材は、主に定期的な配達サービスを利用している。利用者の残存能力や生活歴を考慮し、一緒に料理をする機会を図るなど、五感で楽しめるように支援している。行事に合わせて敬老会や花見等の時は、弁当を注文するなど、いつもと違う楽しみ方を工夫し、おやつを手作りすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェック行い、水分が進まない方には時間をずらしこまめに声掛け行う。極端な変化がある場合医療機関に随時報告行う		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様に合わせた容器の使用(スポンジブラシ・ガーグルベース・歯磨き粉等)本人の状態に合わせて見守りや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の方々には定期的にお声がけし、一人ひとりの状態に応じて対応している。	排泄パターンを把握し、自立できるように職員間で情報を共有しており、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。その取り組みで、リハビリパンツから布パンツに変更した利用者もいる。便秘対応には食事を工夫して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理は毎日行い、状況に応じて医療機関と連携し対応している。食事にはなるべく消化の良いものを取り入れて毎日ラジオ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前のご本人に希望をお聞きし、拒否がある場合は無理強いしない。順番も介助者側で決めずご本人の入りたいタイミングでの入浴を心がけている。	入浴時間は午前中を基本としているが、希望があれば午後も入浴ができる。利用者毎に湯を交換している。利用者と職員との関係性などにも配慮して取り組み、重度化した場合には、2人体制で介助し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はできるだけご本人様が使用していたものを持ち込んで頂き、家庭の雰囲気に沿ったものを使用。就寝時間を決めずご本人の生活リズムに合わせた支援の提供をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬箱を作成し、それぞれが服用している薬の種類をリスト化し把握を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた家事の手伝いや、日々のレクリエーションを定期的に行い、一人ひとりが楽しんで生活できるような時間作りに取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせて外出の機会を設け、普段はいけない場所への外出支援も行っている。又、個々に合わせ、散歩やドライブ等希望する場所への外出も行っている。	感染予防を徹底し、近所の神社に散歩へ出掛けたり、好きな場所にドライブするなど、外出の機会を設けている。利用者が外気浴をしながらの気分転換や季節が感じられるよう支援している。車椅子の利用者も外に出て日向ぼっこをしたり、近隣の笹竹の風の音を感じてもらうなど、コロナ禍でも工夫して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、現金や貴重品は持参していない。必要なものはその都度ご家族へ連絡し持参していただいている。又は、施設側で立替で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望時には、職員がダイヤルし、代わってお話していただいている。手紙等が届いた時はその都度手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を楽しんで頂けるよう、その季節の飾りをしたり、食事を提供したり工夫をしている。	木材の自然色を生かした内装で、リビングは広く明るい。加湿と除菌の機能のある空気清浄機が備え付けてあり、職員が温・湿度管理を行っている。テレビの音や音楽、食事準備などの音など、心地よく生活音が聞こえるように工夫し、季節感ある飾りも取り入れている。ベランダにはウッドデッキがあり、敷地内に自動販売機が設置してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでお話しやお茶飲みが楽しめるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、ご本人が使用していた馴染みの物を持ってこられている。	居室には、エアコン・クローゼット・ベッドが設置されており、家族部屋もある。利用者の今までの生活習慣が継続できるよう、馴染みの家具を持ち込み写真など飾っている。掃除や片づけは、職員が利用者と一緒にいき、温・湿度は職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事を職員と一緒に無理のない範囲で行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0470700436		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(笹生) ユニット:竹棟		
所在地	宮城県名取市愛島笠島字東南沢74-1		
自己評価作成日	令和2年4月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2021年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

竹林に囲まれた自然豊かな環境の中で季節感を感じていただきながら、心穏やかに生活を営むことができます。入居者様一人ひとりの思いを大切にしながらここに合わせた支援を心がけております。ご家族様や地域住民の方々との関係を大切にし、行事に参加して頂いて、信頼関係を深めています。隔月の運営推進会議ではご家族、町内会、行政、包括センター、民生委員に参加していただき、意見交換を行い透明性のある施設運営を心がけております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

笹竹に囲まれた自然豊かな環境にあり、ウッドデッキが付いた平屋造りの事業所である。敷地内には自動販売機も設置され寛げるようベンチもある。リビングは広く明るく、日々の生活の中で季節が感じられるよう工夫し取り組んでいる。法人理念「自由に生きる」「家族の絆を大切にする」を念頭に、事業所理念「地域に密着した心地よい空間で過ごせるよう支援する」を目指し、利用者の習慣やこれまでの生活歴を大切にされた支援に努めている。家族部屋があり、家族と一緒に過ごすことも可能である。家族には、毎月個別に職員が手書した便りを送付している。町内会と連携が取れており、非常災害時の協力体制もある。例年、敬老会等の行事には、家族や地域の人が多く集まり、交流を深める機会になっていた。コロナ禍により自由な外出を自粛しているが、近隣神社に散歩に行ったり、車椅子でも外に出て外気浴を行い気分転換を図るなど、日々、五感で四季を楽しむことができるよう工夫し支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームもも太郎さん(笹生)）「ユニット名 竹棟」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念である「自由に生きる」「家族の絆を大切にする」の他に事業所としての「地域の絆を大切にする」との理念を基に入居者様、ご家族、地域の方々とのコミュニケーションを大切に実践している。	法人理念を念頭にホーム理念をつくり、利用者の生活習慣の継続とホームが心地良い空間になるように支援している。入職者へは、オリエンテーション時に理念や利用者本位と地域との絆について研修している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会へ加入し、地域行事や地域清掃には参加している。事業所の三大大行事、夏祭り、敬老会、餅つき大会などの案内を地域に配布し地域のボランティア協力を得ている。年二回の避難訓練にも町内会にご協力いただき、逆に町内会の防災訓練への職員参加もしている。	町内会へ加入し、コロナ禍でも町内会長との連絡を図りながら意見や助言を得て、関係継続に努めている。町内会の行事が中止になっているが、現在も職員は町内の清掃活動に参加し、隣接する笹竹の伐採などについて連絡相談をしながら周辺の環境整備にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や避難訓練、事業所の行事、町内会の行事に入居者様が参加し、認知症の方々とは自然に触れ合うことで理解が深まっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に開催しており、家族様、町内会、行政、包括センターの参加を頂き活動状況の報告を行っている。多くの意見を頂き、情報交換を行い事業所のサービス向上に活かしている。	2ヶ月毎に家族や町内会長、地域包括職員、市職員、民生委員が参加し開催していた。メンバーから積極的な意見や提案があり検討し運営改善に繋げていた。現在は、コロナ禍の影響でホームに集まっての開催はできないが、メンバーへ連絡し、相談したり意見や助言を得て運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に介護長寿課の参加をしていただき、運営状況の報告を行っている。名取市内の新しい情報や事業所へのアドバイス等を頂いている。	利用者の状況やトラブル、事故報告等を随時行っている。生活保護の利用者状況について、市職員と連絡を取り合いながら連携し支援している。書類の提出等についても相談しており、実施指導の際には助言を得て運営改善を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	教育委員会が中心となり外部研修を受けその内容は全員に復命されている。年4回の内部研修を行い、事業氏において自由な行動を制限しないケアに取り組んでいる。ただし、夜間19:00以降は施錠している。	教育委員会の担当職員と管理者で、身体拘束排除に関する研修を計画し、3ヶ月毎に開催している。また、利用者一人ひとりの状況を確認し、スピーチロックに繋がる事例を上げ、課題・留意点を洗い出し検討している。帰宅願望が強い利用者には、寄り添いながら声掛けすることを意識し、職員間で情報共有して対応している。警察との連携体制もある。危険防止のためセンサーを使用したり、防犯上夜間は玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への促進、内部研修を実施し、各職員が学習できる場を設け虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度についてはほとんどの職員が理解していない。過去にも現在も当制度を使用した方が居なかったこともあるが、今後外部研修など学ぶ機会を作りたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明と同時に質問や疑問点等理解納得が得られるよう説明を行っている。改定があった場合は書面で通知し質問やご意見を随時お答えできるような体制を整えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会に参加していただき意見交換を行っている。ご家族の面会時や介護計画書の説明時にはご家族様と細やかに話し合い意見や要望が言いやすい環境作り心がけている。	例年は年1回、ホーム行事と合同で家族会を開催していた。地域住民と交流を深める場を設けたり、家族や親戚の参加が多く家族同士の交流の機会となっていた。コロナ禍で中止となっているが、電話連絡等で意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議を開催し、意見や提案の場としている。又日頃よりコミュニケーションを取り話しやすい環境を作っている。	年1回、管理者は職員と面談を行い、意見・要望を聞き、前向きで積極的な意見が出るようにコミュニケーションを図っている。日常的には、主任に相談し連携を図っている。勤務シフトについて出された意見や提案を検討し、朝の時間帯の職員配置を手厚くする等、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員は常に向上心を持ちながら、勤務し、職場環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に内外の研修の機会を設けながら勤務している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内会の避難訓練、防災についての研修に参加し、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い本人に合った入居方法を考え、安心して過ごして頂ける信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当者が入居前に訪問し、ご家族の困りごとや要望をお聞きし、入居後もお話を聞きすることで良好な関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族様の状況を把握し、必要な支援を見極めている。他のサービス事業所とも連携を図り情報を貰うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共生という姿勢を大切にし、職員が利用者様に頼ったり何かする時は相談するなど、喜怒哀楽を出せるよう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も共に楽しめる催しものを企画し参加していただいている。お便りで近況を伝えたり、今後のケアの方向性を相談したりして生活を共に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や友人等が面会に来られた時はゆっくりと話が出来よう支援している。盆、正月にご家族と一緒に過ごされる入居者様もいる。	利用者の状態などを担当職員が手書きの便りを作成し、家族へ渡している。家族から利用者に差し入れがあったり、親族との電話連絡できるよう努め関係が途切れないよう支援している。馴染みの場所にドライブに出掛けたり、今までの習慣が継続できるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人や面倒見の良い人などが隣になるような席の配慮をしている。話したい人が居ると移動したり、入居者様同士の関わりもある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居後も他施設での情報を確認している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の思いや意向を確認し、モニタリングを行い、プランに反映している。困難な場合はご本人にとって必要な支援を検討している。	入居時に利用者の生活歴や趣味を確認している。日常的には担当職員が中心に、利用者の表情や食事の様子の変化、身体面で変化したことについて等、気付きを毎月ミーティングで情報共有し支援に繋げている。	状況をみながら「利用者の生活がこれまでのように継続できる」ための取り組みについて、更に検討することを期待する。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人とご家族様から話を伺い、情報を収集し、入居後も生活の中での会話や暮らしぶりから情報を得て随時追加して。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別シートを作成し、一人ひとりの状況を把握するよう努めている。出勤時には申し送りを通して情報を共有し、毎日のバイタル測定で体調の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリングを基に職員ミーティングを行い、ご本人とご家族様の意向も確認したうえで、課題や検討が必要な時には現状に即した支援ができるようにしている。	利用者・家族の意向の他、医師から助言を得ている。毎月の職員会議で、職員から意見を聞き、課題等を検討して介護計画に反映させている。利用者の楽しみや習慣なども取り入れ立案し、家族に郵送し確認・同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などケース記録に記入し、申し送りノートで情報を共有し、プランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ミーティングの機会に支援方法について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の能力や体調を考慮し無理のないよう生活を楽しんで頂ける様、状況により地域参加をしていただけるように支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望されるかかりつけ医へ受診できるよう配慮し、医療機関と連携している。通院介護は基本的にはご家族対応としているが、職員が同行する場合も有る。また往診医の受診や訪問看護(個別契約)を含め医療連携の連絡は医療ノートに記入し情報を共有できるようにしている。	ほとんどの利用者が往診医をかかりつけ医としている。職員は往診医が記録した「定期往診チェック表」や「医療ノート」に記録された情報を共有し、医療連携体制を整えている。他科受診時に職員が同行した場合には、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個別に契約している訪問看護の看護師と連携を図り入居者様の健康状態を把握しご家族様と職員間、看護師の間で連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の対応がスムーズに出来るよう介護サマリーを作成しており、病院関係者と情報の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で施設側、主治医、ご家族様と話し合いの場を設け方向を共有し支援を行っている。	利用者の状態が重度化し、医師が終末期と判断した際には家族に説明し、意向の確認や話し合う機会を設けている。夜間でも医師と連絡を取り合うことができ、看取り経験がある職員も多く、医療とホーム職員との連携体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	様々な場面を社内研修を行いミーティング等の場で行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回行っている。火災報知器等の点検も行っている。非常用の備蓄、備品の点検も期日を決め行うようにしている。	例年は年2回、避難訓練を実施しているが、今年度は実施できなかった。災害時には町内会との協力体制ができており、建物の外へ避難後には利用者を誘導してもらうなど連携を図っている。感染症対策や定期的な設備・備蓄品の点検も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりを尊重し、その方に合った話し方や接し方を考え対応を心がけている	利用者に合わせた呼び名で声掛けし、一人ひとりの人格を尊重しながら支援に努めている。言葉掛けや支援時に意識するよう取り組み、申し送り時はイニシャルで行うなど配慮して取り組んでいる。居室への入室時は必ずノックし確認を取り、排泄や着脱介助時には、ドアやカーテンを閉める等羞恥心に配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の訴え等に日頃から耳を傾け、話しやすい環境を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けを行い一人ひとりの希望を伺い希望に沿った生活がなるべく出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容、入浴時の着替え等、希望がある方は希望に沿う身だしなみで、他の方は季節等を考えて対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に応じ無理のないよう家事をしていただいている。また見守りをしながら食事をしていただき、職員が介助もを行っている。	食材は、主に定期的な配達サービスを利用している。利用者の残存能力や生活歴を考慮し、一緒に料理をする機会を図るなど、五感で楽しめるように支援している。行事に合わせ敬老会や花見等の時は、弁当を注文するなど、いつもと違う楽しみ方を工夫し、おやつを手作りすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を提供したり、しっかりと水分が取れるよう声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け口腔ケアを行っている。出来るところまでしていただき出来ない所は介助で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を利用し、排泄パターンを把握している。定期的の時間に声掛けしトイレに行っている。	排泄パターンを把握し、自立できるように職員間で情報を共有しており、できるだけトイレで排泄ができるよう支援している。その取り組みで、リハビリパンツから布パンツに変更した利用者もいる。便秘対応には食事を工夫して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	提示の水分補給を行っている。おやつ時間にラジオ体操を毎日行っている。主治医の指示の元下剤服用管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の体調を見ながら、入浴の声掛けを行っている。主治医指示で制限されている入居者様もおり、個々に沿った声掛けや支援を行っている。	入浴時間は午前中を基本としているが、希望があれば午後も入浴ができる。利用者毎に湯を交換している。利用者との関係性などにも配慮して取り組み、重度化した場合には、2人体制で介助し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	褥瘡防止の為、日中でも居室で休んで頂くよう声掛け支援を行っている。夜間帯は安心して休んで頂くように定時で巡視を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を確認しながら行っている。異変等があった場合は主治医へ連絡し、その都度指示を貰い対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調を見ながら家事活動していただくよう声掛け支援を行っている。民謡ボランティアやレクレーション活動にも参加していただけるよう声掛け支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事の中で外出したり、体調を見ながら地域の行事等に参加していただくよう声掛け支援を行っている。	感染予防を徹底し、近所の神社に散歩へ出掛けたり、好きな場所にドライブするなど、外出の機会を設けている。利用者が外気浴しながらの気分転換や季節が感じられるよう支援している。車椅子の利用者も外に出て日向ぼっこをしたり、近隣の笹竹の風の音を感じてもらおうなど、コロナ禍でも工夫して取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、現金や貴重品は持参していない。必要なものはその都度ご家族へ連絡し持参していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望時には、職員がダイヤルし、代わってお話していただいている。手紙等が届いた時はその都度手渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール等季節感を感じられる様な物を取り入れている。	木材の自然色を生かした内装で、リビングは広く明るい。加湿と除菌の機能のある空気清浄機が備え付けてあり、職員が温・湿度管理を行っている。テレビの音や音楽、食事準備などの音など、心地よく生活音が聞こえるように工夫し、季節感ある飾りも取り入れている。ベランダにはウッドデッキがあり、敷地内に自動販売機が設置してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでお話しやお茶飲みが楽しめるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、ご本人が使用していた馴染みの物を持ってこられている。	居室には、エアコン・クローゼット・ベッドが設置されており、家族部屋もある。利用者の今までの生活習慣が継続できるよう、馴染みの家具を持ち込み写真など飾っている。掃除や片づけは、職員が利用者と一緒にいき、温・湿度は職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	体調を見ながら、自分で出来ることは声掛けしながら行って頂く。		